

「家庭総合」	単位数	4単位
	学科・学年	普通科 3年

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	1. 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、子ども、高齢者、そして、社会とのかかわりについて理解する。 2. 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身につける。
使用教科書	第一学習社「家庭総合」

2. 学習計画 年間4単位 (140時間)

評価の観点のポイント a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学月	学習項目	学習内容(ねらい)	a	b	c	d	
1	4	1章 これからの生き方と家族 1節 青年期を生きる					
		①自分らしい人生とは	・人間は生涯を通して発達していく存在であることを認識する。	○			○
		②青年期の課題	・青年期はアイデンティティを確立する時期であることを知る。	○			○
		③ワークライフ・バランス	・仕事と生活の調和をめざし、家庭生活と職業生活を両立するための課題について考える。	○	○		
		④男女の平等と相互の協力	・男女共同参画社会に向けての法令について理解を図る。	○	○		○
		2節 家族・社会との関わり					
		①家族・家庭とは?	・人間形成の面での家族の役割と重要性について理解する。	○			○
		②家族・家庭のはたらき	・家族形態の相違による家庭生活とその多様性を理解する。		○		○
		③これからの生活を作る	・次世代をはぐくむ必要性と多様な手段について考える。	○	○		○
		④家族に関する法律	・人の一生と法律のかかわりおよび家族に関する法律について理解する。	○			○
5	5	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達					
		①次世代をはぐくむ	・次世代の子どもたちを健やかに育てることの責任を理解する。	○			○
		②命のはじまり	・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母胎の変化を学ぶ。	○		○	○
		③子どもの体の発育・発達					
		④子どもの心の発達	・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎を作る最も重要な時期であることを理解する。	○			○
		⑤子どもと遊び					
		⑥子どもとのふれあい	・乳幼児の発達の面から遊びの意義や児童文化財について考える ・幼児期が、心と体の発達の面で大切な時期であることを知る。	○	○		○
		2節 親の役割					
		①親と子の関係	・乳幼児期の「愛着」の形成は、その後の人間関係作りに重要であることを理解する。	○			○
		②乳幼児の生活	・子どもの人間形成に関わる親の役割について理解する。	○	○		○
3節 子育て支援と福祉							
①子育て支援と地域社会のかかわり	・家庭保育と集団保育の意義と、保育のあり方、特徴を理解する。 ・子どもの権利や福祉について理解を図る。	○			○		
			○			○	

	②子どもの権利と福祉	・国際社会に生きるものとして差別のない社会をめざし、ともに生きる大切さを考える。	○	○	○
6	3章 充実した生涯へ	1節 高齢期を生きる			
	①高齢期をどう生きるか	・高齢者の存在が関わり深いものになってきたこと、高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。	○		○
	②高齢期の生きがいと就労	・高齢者の健康意識について知る。	○	○	○
	③高齢者を知る	・高齢者の社会参加の例として、地域活動等について考える。 ・高齢者の優れた知力について知る。	○	○	○
	2節 高齢社会を支え合う				
	①高齢社会の現状と課題	・日本の高齢化の現状について理解するとともに将来のあり方を考える。	○	○	○
	②高齢者やその家族の支援システム	・地域の介護サービスの状況について調べ、高齢者がその人らしい生活を送れるよう実践していく態度を養う。	○		○
	③高齢者の尊厳	・高齢者に対する心構え、介助される側の立場を理解する。	○		○
	4章 ともに生きる				
	①社会保障制度と福祉	・社会保障制度の必要性としくみを認識し、理解する。	○		○
	②ともに生きる社会	・ノーマライゼーションの実現のための実践的な態度を身につける。	○		○
7	6章 食べる				
	①私たちと食事	・日常の食生活を振り返り、食事について学ぶ意欲を高める。	○		○
	②食べることと健康	・健康で安全な食生活を営むための基本を知る。	○		○
	③食生活の変化	・食生活に関わる情報を適切に判断することができる。	○	○	○
	④食生活の文化	・日本や地域の食文化を知る。	○		○
2	9	2節 栄養と食品			
	①人体と栄養	・健康な食生活を送るうえで必要な栄養素について理解する。	○		○
	②栄養素の種類と性質	・それぞれの栄養素について働きを理解する。	○		○
	③加工食品・健康食品など	・調理加工食品や調味料、香辛料について理解するとともに、サプリメントの効果や扱い方についても考える。	○	○	○
	3節 食生活の安全のために				
	①食生活の安全と衛生	・食中毒の種類について知り、予防について学ぶ。	○		○
	②食品の選択と保存	・食品を正しく選ぶ力を養う。	○		○
10	4節 食生活をデザインする				
	①栄養バランスのよい食事	・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。	○		○
	②ライフステージと食事	・ライフステージごとに、必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。	○		○
	③献立作成の手順	・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて、合理的に献立作成ができるようにする。	○	○	○
	④調理の基本				
	⑤調理実習	・調理の基本技術を習得する。 ・和風・洋風・中国風料理の盛りつけと配膳ができるようにする。	○	○	○
11	7章 装う 1節 人の一生と被服				
	①人と被服	・被服の持つ機能を生かし、望ましい着装について考える。	○	○	○
	②多様な被服	・被服は気候・風土や、ライフステージによっても違うことを知る。	○		○
	③被服の選び方	・品質表示・取り扱い表示の意味、サイズ表示の見方を理解する。	○		○



平成31年度家庭科シラバス  
科目の概要 科目名 (生活教養) 3年

教科書	私たちのエチケット	副教材	
<p>1. 科目の概要</p> <p>この科目は、社会生活の中でのマナーとエチケットについて学ぶ教科である。人間は、人との触れ合いの中で生きており、個人個人は、集団生活の中の一員として常に関わりの中におかれている。自分の個性を伸ばし、他人を尊重し、新しい時代に処する社会人の一人となるために、正しいマナーとエチケットを実践的に学ぶ内容である。</p>			
<p>2. 主な学習内容</p> <p>(1) 生活教養とは</p> <p>(2) 第1章 高校生としてのマナー</p> <p>(3) 第2章 日常の立ち居振る舞い</p> <p>(4) 第4章 食文化とマナー</p> <p>(5) 第5章 情報伝達とマナー</p> <p>(6) 第6章 年中行事とそのマナー</p> <p>(7) 第7章 フォーマルマナー</p> <p>(8) 第8章 社会に出てからのマナー</p> <p>(9) 第9章 国際社会とマナー</p> <p>(10) 秘書検定(3級・2級)受験へ向けた対策</p>			
<p>3. 評価の方法</p> <p>成績の評価は、①定期考査 ②提出物・レポート ③出席状況 ④学習態度(実習、教室での学習)等を資料とし、総合的に判断し評価する。</p> <p>1, 2学期は100点満点で評価し3学期には5段階評価とする。</p>			
<p>4. 備考</p>			

「生活教養」	単位数	2単位
	学科・学年	普通科 3年

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. エチケットの意義や基本について理解させ、常に相手の立場にたって物事を考える態度を養わせる。</p> <p>2. いろいろな挨拶やおじぎのTPO・立ち居振る舞い等について学び、毎日の生活に自然に生かすことが出来るようにする。</p> <p>3. 正しい言葉使い、敬語の使い方、手紙の書き方、電話のかけ方等について理解させ、実践できるようにする。</p>
使用教科書	最新版 私たちのエチケット ー身近なところから始めようー (教育図書)

2. 学習計画 年間2単位(70時間)

学期	月	学習内容	学習のねらい	留意点 及び備考
第 一 学 期	4	生活教養の学び方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活教養の学習内容とその学習方法評価等について理解させる。</li> <li>高校生らしく高校生活の意義を認識し、一人の人間として立派な大人に成長するように促す。</li> <li>人間は一人では生きられないので家族・友人や他人を尊重し、上手に付き合っていくようにする。</li> <li>言葉は人間が考え出した最大の財産であることや私達の社会生活は、言葉に支えられていることを確認して、言葉は相手を傷つけたり、幸せにしたりするので社会生活上重要な役割を果たしている。</li> <li>学校や校外生活では大勢の人が快適な生活をするための自然発生的なルールがあることを考えさせる。</li> <li>あいさつは「人の心と心をつなぐ架け橋」となることを確認し上手に挨拶やおじぎができるようにする。</li> <li>美しい動作とは疲労が少なく、気分爽快で周囲の人にも良い印象を与え自然に振る舞うことであることを理解させる。</li> </ul>	グループ別実習
		2 第1章 高校生としてのマナー ①家庭・近隣のマナー ②学校でのマナー ③話し言葉マナー ④公共の場でのマナー		
	5	第2章 日常の立ち居振る舞い ①生活の中の立ち居振る舞い～美しさの基本～ ②洋室でのマナー ③和室でのマナー		

5 6 7	<p>第3章 衣文化とマナー</p> <p>①身だしなみの基本 ②状況に合わせた服 ③着想のマナー</p> <p>秘書検定 (3級) 対策</p> <p>一学期のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装はTPO「時間・場所・状況」に応じ、その場にふさわしいものであることや着る人の人柄を表すので内面的な美しさにも心を配るように留意する。</li> <li>・洋服は流行のよさをよく見極めて、個性を失わない範囲で自分に似合う色やデザインをとり入れるようにする。また健康的でいつも自分自身を清潔にすることが見出しなみの第一歩であることを理解させる。</li> <li>・和服を着たときの身ごなしの注意や和服の付属品について学ばせる。</li> <li>・洋服の正装や外出着・和服の正装や外出着について男女別に理解させるまた洋服の正装は昼・夜によっても違うことを確認する。</li> <li>・秘書検定の内容について説明する。</li> <li>・サービス接遇検定の過去の問題を解説して問題に慣れさせる。</li> <li>・出題回数の多い問題のチェックや配点の高い分野についてはなお一層時間をかけて取り組むようにする。</li> <li>・夏休みの課題を確認する</li> </ul>	<p>プリント過去学 習</p>
9 10	<p>第5章 情報伝達とマナー</p> <p>①話し方・聞き方のマナー ②電話対応のマナー ③メールのマナー ④手紙のマナー</p> <p>第6章 年中行事とそのマナー</p> <p>①年中行事のマナー ②ライフステージにおける 慶事</p> <p>第7章 フォーマルマナー</p> <p>①訪問ともてなしのマナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話は気軽に伝言できるなど便利な現代生活の必需品である。それだけにマナーが大切であることに認識させる。</li> <li>・手紙は文章を通じて、自分の気持ちを相手に伝えるものなので、受け取る人の気持ちを考え、心を込めて書くことが大事であることを理解させる。</li> <li>・手紙の形式にそって実際に手紙を書き、宛名を書いて練習させる。</li> <li>・通夜・葬儀・告別式の違いやその時の服装・香典、焼香の仕方、線香の供え方等について理解させる。</li> <li>・悲しみ、嘆きの場を乱すような行為は最大の失礼にあたる。礼儀をわきまえ、心をこめて哀悼の意を表すことが大切であることを確認する。</li> <li>・人を訪れる時の準備とルールについて</li> </ul>	<p>プリント学習</p>

12	6	<p>②贈り物のマナー ③お見舞いのマナー ④弔辞のマナー</p> <p>秘書検定（2級）対策</p> <p>第4章 食文化とマナー ①日本料理のマナー ②会席料理 ③西洋料理 ④中国料理 ⑤パーティマナー ⑥その他の食事マナー</p> <p>二学期のまとめ</p>	<p>て理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様を迎える時の準備とルールについて理解させる。</li> <li>・訪問先の玄関や客室でのマナーについて学ばせる。</li> <li>・贈り物をする場合は目的・時期・中身を充分考慮する必要があることを理解させる。</li> <li>・贈る相手の好みや年齢、自分との関係よく考えて選び、渡し方、贈り物をするときのタブーについて理解させる。</li> <li>・贈り物の包み方も慶事と弔事と違うことを確認し包み方を練習させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回秘書検定に向けての過去の2級問題等をして解説する。3級と2級の違いは記述問題が多い事を確認し、しっかり覚えるようさせる。</li> <li>・テストの結果が合格点に達していない生徒については更に取り組みを強化する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルマナーとは見て美しく、しかも食べやすいやり方の約束であることを理解させ、日頃からの心がけておかないと身に付かないことを認識させる。</li> <li>・フルコースに出される料理とその順番、料理にあったカトラリー、それを使つての食べ方等について理解させる。</li> <li>・日本料理の配膳の仕方、会席料理の献立や食べ方、箸の持ち方や禁止箸等について学習させる。</li> <li>・中国料理の種類と特徴、献立、食器円卓での食べ方について理解させる</li> <li>・ビュッフェの意味について確認し、格式張らない気軽な食事の形式で会話が中心であることを認識させる。</li> <li>・ティパーティの献立を把握させ、和やかに歓談し、雰囲気壊さないことが大切であることを理解させる。</li> </ul>	<p>プリント過去問題</p>
1		<p>第8章 社会に出てからのマナー ①社会人になる</p>		

三 学 期	2	<p>②1人暮らし ③会社でのマナー</p> <p>第3章 国際社会とマナー</p> <p>①国際人としてのマナー ②海外でのマナー ③パスポート</p> <p>1年間のまとめ</p>	<p>・この1年間で学んだマナーを今後の生活に生かして、教養高い立派な社会人になるように促す。</p>	
-------------	---	--	---	--

平成30年度家庭科シラバス  
科目の概要 科目名(フードデザイン)3年

教科書	フードデザイン(教育図書)
<p>1. 科目の概要</p> <p>この科目は、1・2年生で学習してきた家庭科の食物分野の基礎的内容を基に更に知識・技能を高める教科であり、これまで1・2年では十分深められなかった内容を実験・実習によって体験的に学ぶことのできる内容である。また、進路選択で食物関係に興味・関心を持っている生徒も多く、3年で選択科目として置くことにした。</p>	
<p>2. 主な学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲ 食生活の充実・向上<ul style="list-style-type: none"><li>1 食生活の変化と現状</li><li>2 よりよい食生活を創造するために</li></ul></li><li>▲ 健康・栄養・食物・自分らしく生きる<ul style="list-style-type: none"><li>1 なぜ食物が必要なのか</li><li>2 健康に必要な栄養素</li><li>3 食品の成分と変化</li><li>4 食品の加工</li></ul></li><li>▲ 献立と調理<ul style="list-style-type: none"><li>1 調理の基本</li><li>2 献立作成</li><li>3 様式別の献立と調理・食卓作法・</li><li>4 テーブルコーディネート</li></ul></li><li>▲ 調理実習<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日常食・和風献立・和風料理</li><li>・ 日常食・洋風献立・洋風料理</li><li>・ 日常食・中国献立・中国料理</li><li>・ 日常食・その他(行事食)</li></ul></li></ul>	
<p>3. 評価の方法</p> <p>成績の評価は、①定期考査 ②提出物・レポート・発表 ③出席状況 ④学習態度 ⑤各種検定、コンクールへの取り組み状況等から、総合的に判断し評価する。</p> <p>1、2学期は100点満点で評価し、3学期には5段階評価とする。</p>	
<p>4. 備考</p>	

「 フードデザイン 」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年	普 通 科 3 年

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	栄養・食品・献立・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。
使用教科書	教育図書「フードデザイン」

2. 学習計画 年間2単位（70時間）

評価の観点のポイント a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	留意点	a	b	c	d	
第 一 学 期	4	・フードデザインの学び方	1	1年間の学習内容や学習方法 教科の特徴と課題について理解させる		○			○	
		1、食生活の変化と現状	3	・食生活の洋風化に伴い栄養摂取量に大きく影響を与えていることを理解させ、不足している栄養素は何かを把握させる。	DVD ポストハーベスト	○	○		○	
		①食品とエネルギー、栄養素の摂取量 ②食の外部化、社会化 ③輸入に頼る食生活 ④食意識の多様化 ⑤食生活と環境		・ライフスタイルの変化に伴い外食が増加し、さらに輸入食品に頼っている現状を理解させる。 ・食品の多様化は、摂取の仕方によって弊害になることを理解させる。	調べ学習 DVD	○	○		○	
		2、よりよい食生活を創造するために ①これからの食生活 ②食べることの意義と役割	1	・よりよい食生活が健康の維持・増進につながり、生活全般を豊かにしていくものであることを理解させる。	DVD	○			○	
	5	健康・栄養・食物	1、なぜ食物が必要なのか ①食物に求められるもの ②食物はどこから来るのか ③食物の選び方	6	・食物摂取の必要性を理解させる。 ・食物を選択するにあたり安全性、情報収集の大切さを理解させる。	DVD (栄養素の働き)	○			○
		6	2、健康に必要な栄養素 ①炭水化物 ②脂質	6	・各栄養素の種類と栄養的意義、それらの栄養素を含む食品について理解させる。		○			○

第 二 学 期	7	③たんぱく質 ④ビタミン ⑤無機質・水・その他	4	・各栄養素の代謝経路と役割を理解しバランスよく摂取する重要性を理解させる。	新聞つくり	○	○	○		
		3、食生活の成分と変化		・栄養成分が体内で消化吸収される過程を理解する。 ・調理の目的を知り調理による成分変化や効果を考える。		DVD 食品の安全性	○	○	○	
		①栄養素の吸収 ②色、香り、味の成分 ③安全性の向上		2		・私たちの身の回りにある加工食品を知り目的を理解する。 ・食品加工の意義、目的、方法及び特徴に関して理解する。 ・特別の保健効果が期待できる保健機能食品について理解する。	市場調査 (レポート)	○	○	○
		4、食品の加工				①食品加工の方法と特徴 ②保健機能食品と嗜好食品		○	○	○
	9	5、食物検定 (4.3級)	6	1、調理の基本	・調理の目的を理解させ、食品のおいしさが味、香り、その他のさまざまな因子によって総合的に判断されるものであることを理解する。 ・各食品の調理上の性質を理解させその性質を実際調理に応用できる能力を身につける。	DVD 飾り切りのいろいろ 実験 (レポート)	○	○	○	
		①調理の目的 ②食べ物のおいしさ ③調理操作 ④食品の調理性		1	・食品群別摂取量を基にし目的に応じた、多様な食品調理法を取り入れた献立が作れるようにする。		○	○	○	
		2、献立作成			①献立作成の留意点 ②献立作成		DVD (四群点数法) 献立作成	○	○	○
		3、様式別の献立と調理・食卓作法		5	・様式別の献立と調理の特徴を理解するとともに、料理技術や食卓作法を理解し食生活に生かしていける能力と実践的態度を身につける			DVD テーブルマナー	○	○
		①日本料理の特徴と献立食卓作法 ②西洋料理の特徴と献立食卓作法 ③中国料理の特徴と献立食卓作法		33	・みそ汁(赤だし)の基本的な作り方を理解、習得する。 ・青菜のゆで方を理解する。 ・天ぷらの衣の作り方、揚げ材料の下ごしらえの仕方、揚げ方を習得する。		○		○	○
		実習 和風献立 (実習2回)			DVD		○	○	○	
10										
11										



「家庭基礎」	単位数	2単位	
	学科・学年	理数科	2年

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、子ども、高齢者、そして、社会とのかかわりについて理解する。</p> <p>2. 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身につける。</p>
使用教科書	第一学習社「家庭基礎」

2. 学習計画 年間2単位 (70時間)

評価の観点のポイント a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

学月期	学習項目	学習内容(ねらい)	a	b	c	d
1 4	1章 これからの生き方と家族 1節 青年期を生きる					
	①自分らしい人生とは	・人間は生涯を通して発達していく存在であることを認識する。	○			○
	②青年期の課題	・青年期はアイデンティティを確立する時期であることを知る。	○			○
	③ワークライフ・バランス	・仕事と生活の調和をめざし、家庭生活と職業生活を両立するための課題について考える。	○	○		
	④男女の平等と相互の協力	・男女共同参画社会に向けての法令について理解を図る。	○	○		○
	2節 家族・社会との関わり					
5	①家族・家庭とは?	・人間形成の面での家族の役割と重要性について理解する。	○			○
	②家族・家庭のはたらき	・家族形態の相違による家庭生活とその多様性を理解する。		○		○
	③これからの生活を作る	・次世代をはぐくむ必要性と多様な手段について考える。	○	○		○
	④家族に関する法律	・人の一生と法律のかかわりおよび家族に関する法律について理解する。	○			○
	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達					
	①次世代をはぐくむ	・次世代の子どもたちを健やかに育てることの責任を理解する。	○			○
②命のはじまり	・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母胎の変化を学ぶ。	○		○	○	
③子どもの体の発育・発達	・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎を作る最も重要な時期であることを理解する。	○			○	
④子どもの心の発達	・乳幼児の発達の間から遊びの意義や児童文化財について考える	○	○		○	
⑤子どもと遊び	・乳幼児の発達の面から遊びの意義や児童文化財について考える	○	○		○	
⑥子どもとのふれあい	・幼児期が、心と体の発達の面で大切な時期であることを知る。	○			○	
2節 親の役割						
①親と子の関係	・乳幼児期の「愛着」の形成は、その後の人間関係作りに重要であることを理解する。	○			○	
②乳幼児の生活	・子どもの人間形成に関わる親の役割について理解する。	○	○		○	
3節 子育て支援と福祉						
①子育て支援と地域社会のかかわり	・家庭保育と集団保育の意義と、保育のあり方、特徴を理解する。 ・子どもの権利や福祉について理解を図る。	○			○	
			○			○

	②子どもの権利と福祉	・国際社会に生きるものとして差別のない社会をめざし、ともに生きる大切さを考える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	3章 充実した生涯へ 1節 高齢期を生きる				
	①高齢期をどう生きるか	・高齢者の存在が関わり深いものになってきたこと、高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	②高齢期の生きがいと就労	・高齢者の健康意識について知る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③高齢者を知る	・高齢者の社会参加の例として、地域活動等について考える。 ・高齢者の優れた知力について知る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2節 高齢社会を支え合う				
	①高齢社会の現状と課題	・日本の高齢化の現状について理解するとともに将来のあり方を考える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	②高齢者やその家族の支援システム	・地域の介護サービスの状況について調べ、高齢者がその人らしい生活を送れるよう実践していく態度を養う。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	③高齢者の尊厳	・高齢者に対する心構え、介助される側の立場を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4章 ともに生きる				
	①社会保障制度と福祉	・社会保障制度の必要性としくみを認識し、理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
②ともに生きる社会	・ノーマライゼーションの実現のための実践的な態度を身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7	6章 食べる				
	①私たちと食事	・日常の食生活を振り返り、食事について学ぶ意欲を高める。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	②食べることと健康	・健康で安全な食生活を営むための基本を知る。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	③食生活の変化	・食生活に関わる情報を適切に判断することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	④食生活の文化	・日本や地域の食文化を知る。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
2 9	2節 栄養と食品				
	①人体と栄養	・健康な食生活を送るうえで必要な栄養素について理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	②栄養素の種類と性質	・それぞれの栄養素について働きを理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	③加工食品・健康食品など	・調理加工食品や調味料、香辛料について理解するとともに、サプリメントの効果や扱い方についても考える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3節 食生活の安全のために				
①食生活の安全と衛生	・食中毒の種類について知り、予防について学ぶ。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
②食品の選択と保存	・食品を正しく選ぶ力を養う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10	4節 食生活をデザインする				
	①栄養バランスのよい食事	・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	②ライフステージと食事	・ライフステージごとに、必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	③献立作成の手順	・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて、合理的に献立作成ができるようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	④調理の基本	・調理の基本技術を習得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑤調理実習	・和風・洋風・中国風料理の盛りつけと配膳ができるようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	7章 装う 1節 人の一生と被服				
	①人と被服	・被服の持つ機能を生かし、望ましい着装について考える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	②多様な被服	・被服は気候・風土や、ライフステージによっても違うことを知る。	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	③被服の選び方	・品質表示・取り扱い表示の意味、サイズ表示の見方を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

		④被服の成り立ちと着方	・自分らしい装い方を工夫し、実践する。						
		2節 被服の製作							
		①被服の製作過程	・被服製作の手順を理解する。						
		②被服製作用具	・被服製作に必要な基礎的な知識、技術を身につける。						
		③被服製作実習	・リラックスパンツの制作						
	12	3節 被服材料と管理							
		①被服材料の種類と特徴	・織物と編み物の違いを知る。織物は3原組織、編み物はメリヤス組織について理解する。						
		②衣料用繊維							
		③被服の手入れと保管	・布がどのような繊維でつくられているかに関心をもつ。						
		④洗濯のしくみ	・被服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。						
		⑤衣生活と資源環境	・湿式洗濯と乾式洗濯の特性を理解する。 ・環境に負荷を与えない行動について考え、実践する。						
3	1	8章 住まう 1節 人の一生と住まい							
		①気候風土と住まい	・住まいは気候や風土に応じてつくられたことを理解する。						
		②人と住まい	・なぜ、住まいが必要か考える。						
		③平面図の活用	・平面図を読み取り、望ましい間取りを考えることができる。						
		④ライフステージと住まい	・各ライフステージに必要なとされる居住条件と住まいについて考える。						
		⑤住まいのインテリア	・インテリアの基本を理解し、居心地のよい部屋作りを考える。						
	2	2節 住生活の計画と選択							
		①快適で健康な住まい	・住環境が健康な生活に大きな影響を与えることを理解する。						
		②住まいの安心・安全	・自然災害や人的災害への対策について考える。						
		③住まいの維持管理	・耐久年数を維持するためのメンテナンスについて理解を深める。						
		5章 経済生活を営む 1節 私たちの暮らしと経済							
		①経済生活の中身を知る	・家庭の収入と支出をとおして家計の構造を理解する。						
		②家庭生活と社会の関わりを知る	・家庭経済と国民経済の関わりを理解し、経済計画・予算計画の必要性を認識する。						
		③将来の経済生活を考える	・経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し主体的に判断し行動する態度を身につける。 ・生活目標の実現のためには、経済計画が必要であることを知る。						
	3	2節 消費者問題を考える							
		①契約トラブルとその対策	・責任ある消費行動をとっていこうという態度を養う。						
		②クレジット利用のリスク	・契約に対する責任を自覚し、問題商法に会わないための予防法を考える。						
		③消費者の自立と行政の支援	・消費者は一人ひとりに義務と責任があることを理解する。						
		3節 持続可能な社会をめざして							
		①消費生活と環境問題	・次世代が暮らしやすくするために、環境保全に取り組む責任があることを認識する。						
		②私たちになにができるのか	・環境に調和したライフスタイルの確立を図る。						